

第 13 回 EAJ 中部レクチャー／福田先生 & 下山先生トークイベント

「知の巨人が縦横無尽に語り尽くす ロボットの明日、日本の未来」報告

中部支部運営委員 岩井善郎／ YOSHIRO IWAI

日本工学アカデミー中部支部(EAJ 中部)では、第 13 回 EAJ 中部レクチャーを 11 月 6 日(土)に開催した。今回は、ロボット工学研究で世界的に著名な福田敏男名城大学教授(IEEE 前会長)と下山勲富山県立大学長に、「知の巨人が縦横無尽に語り尽くす ロボットの明日、日本の未来」と題してご講演と対談をお願いした。今回のレクチャーは、EAJ 中部支部内に発足した企画推進部会が企画・運営した 2 回目、コロナ禍を配慮しオンラインで開催した。概要は以下の通りである。

原邦彦副支部長の開会の挨拶に引き続いて、企画推進委員の川澄未来子名城大学准教授と運営委員の辻篤子中部大学特任教授(元朝日新聞論説委員)が聞き手・進行役になって、両先生に、ロボット研究の醍醐味、世界における日本のロボット研究の現状と期待、若い世代の育成など、さまざまなトピックスについて語っていただいた。

まず、両先生からスライドを用いて 10 分程度、これまでの研究の歴史や成果、研究を通しての思い、将来展望などを紹介いただいた。福田先生は IEEE の概要、マルチスケールロボテックス研究の歩み、ムーンショットプログラムにおける AI ロボット研究などについて、また下山先生は東京大学での生物を参考にした 2 足、4 足、6 足歩行および羽ばたき飛翔解析によるロボット創製や少子高齢社会の支援ロボットなどについて紹介された。

その後、聞き手の先生方からの問いかけ「日本はロボット大国と言われてきたが、現在の立ち位置とロボット技術は？」に対して、産業ロボットは強いが医療ロボットなどは欧米が進んでいること、日本のアプリケーションはロボットビジネスや投資に対するリスク回避の姿勢により遅れていて残念であることなどが語られた。次に、「新型コロナウイルス感染拡大がロボットの世界やエンジニアに与えている影響は？」の問いかけに対して、バーチャルリアリティを使うことは加速されたが海外との情報のやりとりは急減し世界から取り残されることが危惧されると語られた。また、福田先生は富山県出身、下山先生は 2019 年に東京から富山県に移られたことから、地方における研究やものづくり、さらに中部地域の産業の発展のために必要なチカラ(力)が話題になった。その中で人材育成が重要かつ喫緊の課題であり、福田先生はこれからの若者を育てる人達に対して「好奇心を大切にダイバシティーを育てること」、また下山先生は若い人たちに「ニッチでも良いから自分の強いところを創ること」が重要であると提言された。

予定の 1 時間 30 分が瞬く間に過ぎ、林良嗣支部長から閉会の挨拶があり余韻が残る中で終了した。

今回のレクチャーの参加者は 117 名で、約 70%が非会員であった。年代も学部生・院生から教職員、企業人、シニアまで幅広く、また米国、タイ、シンガポールからも参加があった。終了後のアンケートでは、今回の第 2 弾開催への期待が多数あった。なお、両先生の講演とトークは EAJ 中部支部の HP で閲覧いただくことができる。

最後に、福田敏男教授、下山勲学長、ならびに後援いただいた科学技術振興機構(JST)、IEEE Japan Council、協賛いただいた関西支部の関係各位に感謝申し上げます。



対談トピックス

- ロボット工学の昔と今
- 世界の中の日本
- 地域のチカラ
- 人材育成



Toshio fukuda



Isao Shimoyama